

## 令和 2 年度浜松市社会福祉審議会

### 第 4 回高齢者福祉専門分科会会議録

- 1 開催日時 令和 2 年 1 0 月 2 3 日（金）午前 9 時 3 0 分から午前 1 0 時 3 0 分
- 2 開催場所 浜松市役所本館 8 階 第 3 委員会室
- 3 出席状況 委員（9 名）  
 石川 恵一（浜松市自治会連合会 理事）  
 渥美 みつ（浜松市老人クラブ連合会 副会長 女性部浜北地区代表）  
 鈴木 雅教（浜松市ボランティア連絡協議会 会長）  
 小栗 康義（社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 常務理事）  
 鈴木 幸子（浜松市民生委員児童委員協議会 理事）  
 小杉山 敬（浜松市社会福祉施設協議会 理事）  
 松本 礼子（公益社団法人静岡県看護協会 西部地区支部役員）  
 酒井 昌子（聖隷クリストファー大学 教授）  
 平野 岳子（浜松市議会）
- 事務局（14 名）  
 高齢者福祉課 渡辺次長兼課長 鈴木担当課長 亀田課長補佐  
 鈴木 G 長 門屋 G 長 山根 G 長 坂本 G 長 宮崎 高橋  
 健康医療課 島次長兼課長  
 介護保険課 徳田課長、大村課長補佐  
 健康増進課 小山課長、平野課長補佐
- 欠席委員（1 名）  
 藤島 百合子（一般社団法人浜松市医師会 理事）
- 4 傍聴者 1 名
- 5 議事内容 （1）はままつ友愛の高齢者プラン（案）について  
 （2）はままつ友愛の高齢者プラン（案）のパブリック・コメントの実施について
- 6 会議録作成者 高齢者福祉課 生きがい・長寿政策グループ 宮崎
- 7 記録の方法 発言者の要点記録  
 録音の有無 有・無

## 8 会議記録

1 開会

2 会長挨拶

3 議事

(小杉山会長)

議事の公開非公開について、個人情報などの非公開情報を審議する予定はないので公開としたいが、よろしいか。

(異議なし)

**(1) はままつ友愛の高齢者プラン(案)について 及び (2) はままつ友愛の高齢者プラン(案)のパブリック・コメントの実施について**

(小杉山会長)

(1) はままつ友愛の高齢者プラン(案)について 及び (2) はままつ友愛の高齢者プラン(案)のパブリック・コメントの実施について、事務局から説明願いたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

資料に基づき説明

(小杉山会長)

事務局から説明されたが、何か意見や質問はあるか。

(鈴木雅教委員)

プラン第1章の3、プランの期間のところ、団塊の世代が75歳となる令和7年とあるが、団塊の世代である自分は令和5年に75歳となる。この点についてどう考えるか。

プランP8、P11にあるように、2020年の90歳以上の人口は1万5千人、10月1日時点の要介護認定者数は1万人で、ほとんどが要介護となる。要介護にならないようにもっと健康づくりをすすめないと、人生100年時代が間違いになるのではないかと改めて考えさせられた。

認知症施設の入所費用はどのように決められているのか。チラシ等を見ると食費別で14～15万円/月かかると書いてある。団塊の世代は年金も少なく、施設職員も不足している中で、誰も施設に入所できないということにならないか心配だ。プランの3年間だけではなく、その先を見据えて解決策を載せてほしい。

市政の効率化のため合区が必要というが、北遠地域や北区方面では今まで通りの高齢者サービスを維持できるのか。プランに支障が出ないようにしていただきたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

団塊の世代については、年齢に幅があるため多少のズレが生じる旨ご理解いただきたい。

(徳田介護保険課長)

介護施設について、高齢者人口の伸びや介護度の割合を見据えて、今後3年間の施設の枠は確保している。施設入所費用については、市では決められないが、所得の低い方には減額制度がある。今後高齢者が増えていく中で、制度の対象を広げるか、負担の割合を減らすか、国に対して制度的な要望を行っていく。

現在90歳以上の3分の2くらいが要介護となっているが、その割合を下げて皆さんに健康に暮らしていただくために、予防に力を入れていきたい。

(鈴木雅教委員)

金銭的理由で施設入所をあきらめて自宅療養を選ぶことになるのではないかという不安がある。一方で、施設としては、入所費用を上げていかなければいけないのに下げざるを得ないという状況になるのでは。3年間のプランの先を見据えて、70歳以上の人に向けて健康づくりに励まないといけないよというメッセージを出してほしい。

(小杉山会長)

多くの方が心配されていることを代弁していただいた。特別養護老人ホームは本人の収入内で生活できる場所ではあるが、ご指摘いただいたように、職員不足のため部屋はあっても活用できていないという現状もある。どのように職員を確保し、今いる職員については、どのようにやりがいを持って続けてもらうかということ、しっかり考えていかなければいけない。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

合区については、区が減っても地域でのサービスは低下させない形で考えており、今後も注視していく。

予防については、今回特に「予防・健幸都市 浜松」の取組として、企業と一体となって認知症予防のための実証実験にも取り組んでいく。認知症グループホーム等の施設の数は必要に応じて増やしていくが、まずは地域で元気に暮らしていくための計画にする。住み慣れた地域で暮らしたいという要望は多く、そのためには、行政だけではなく、協議体等の取組の中で、地域でできることは地域でやっていただくという方向で進めていきたい。

(小栗委員)

昨年度福祉総務課が作成した地域福祉計画の中で、3つのリーディングプランのひとつとして、地区社協の活動支援が入っているが、このプランには地区社協という言葉がなかなか出てこない。重点施策6 地域共生社会の実現に向けた事業の推進において、地区社協が果たす役割は大きい。P23の6、P34に地区社協という言葉が出てきてもいいのではと思う。P35の協議体の図の中にも、地区社協を入れるべきでは。このプランにおける地区社協の位置づけをどのように考えているのかお聞きしたい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

協議体の図の中に地区社協を入れるよう修正する。その他についても確認し修正する。

(小栗委員)

表記について、P 3 3 や P 3 4 において「取組」「取り組み」「取組み」が混在している。公用文の基本的なルールを確認し、修正した方がいい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

確認し修正する。

(小杉山会長)

P 3 8、P 3 9 にウエルネスプロジェクトについて追加されたが、ご意見はないか。

(平野委員)

合区により市民サービスが低下することがないように、議員として当局に訴えていく。地区社協について、取組が大変活発で頑張っているから、組織をここでしっかり定義づけることが大切だと思う。ウエルネス・ヘルスケアについて、市が予防に力を入れるということで旗揚げをした事業であり、このつながりはとても大事。コラムとして取り上げた点を評価する。

(石川委員)

パブリック・コメントについて、自治会連合会や区協議会への説明は、できればパブリック・コメント実施前、プランの策定中をお願いしたいが、いかがか。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

区協議会への説明は11月下旬に行う予定。パブリック・コメント開始後となり申し訳ない。区協議会担当の市民協働・地域政策課に申し伝える。

(酒井職務代理者)

パブリック・コメントについて、一般の方には難しい。どのような部分についてコメントしてほしいのか、概要をまとめたり補足説明をしたりして、回答しやすくしてほしい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

今回はこのまま行いたい。色々な方がいらっしゃる中で、専門家からは細かい部分についてご指摘をいただく場合もあるし、市民の方から全体を見てご意見をいただくこともある。

(鈴木幸子委員)

パブリック・コメントについて、やはり事前に説明してもらえるとありがたい。

人生会議手帳について、区役所にもらいに行ったら使用理由を聞かれた。使い方によっては、この手帳を作成することで不安を覚える人も増えてくると思うので、上手に使ってほしいと思う。

今回のプランでは、在宅で暮らしていくために必要な医療や介護、そして、そうならないための予防について、よく分かった。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

人生会議手帳については、不安に思う方も多いため、説明をして渡したいと考えている。専門職に対する研修も実施している。

(鈴木幸子委員)

医師会から、人生会議手帳について民生委員さんに説明したいとの申し出があった。人生会議手帳は重要な位置づけにある。良い老後のために使いたい。

(渥美委員)

プランについて、年度初めの役員会で配布されたが、内容が難しく、カタカナ文字を理解できない方もいる。できれば、役員会のときに説明してほしい。

(渡辺健康福祉部次長兼高齢者福祉課長)

なるべく伺うようにしたい。出前講座も活用してほしい。

(松本委員)

プランはこのように定期的に評価してまとめることが大切だと感じている。

(小杉山会長)

それぞれの立場からの貴重なご意見をいただいた。

以上で議事を終了する。

4 連絡事項

5 閉会